

石川 孝重*
Takashige ISHIKAWA

* 教材コンペ・共有化推進小委員会 主査

日本女子大学住居学科 教授, 工学博士 (ishikawa@fc.jwu.ac.jp)

Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's University, Professor, Dr. of Eng.

1. 本委員会活動の目的

近年、学生の文章力の低下や表現力の欠如、気質の変化、理数系離れの顕在化などを背景として、大学等の教育現場において、学生の学習意欲を喚起する必要性が生じており、様々な学習・教育の場面において、魅力ある教材の作成や効果的な教育システムの開発等々の工夫が求められるようになってきている。建築教育も例外ではなく、多様な教育機関において、多くの会員が、より良い建築教育を目指して、独自の教材の作成や新しい教育システムの開発等々、特色ある建築教育に取り組んでいる。

しかしながら、これらの優れた建築教育への取り組みの多くが、それぞれの実践者と周りの近い少数の関係者の間でのみしか認知され、共有されておらず、我が国における建築教育全般の向上には、必ずしも寄与していないのが現実ではないだろうか。

そこで本小委員会では、各教育機関等で行われている建築教育について、特色ある取り組みの実践状況を把握し、そこで活用されている教材の公開や共有化による有効活用を推進するべく検討を重ねている。

2. これまでの活動状況と経緯

数年前より本会では、専門教材のあり方検討小委員会において、学会として提供すべき教材のあり方を模索し、理事会に検討結果を報告した。これと並行して、教材検討小委員会では、その具体的な教材事例を数種提案した。それら成果の報告を兼ねた 2003 年度大会の研究集会では、参加者へアンケートを実施した。集計結果から、その集会でテーマとした、特色ある教材、優れた取り組みの情報を公開・共有化することの有効性を確認した。

これらの構想を具体化するために、2004 年度から教材コンペ・共有化推進小委員会で審議した結果、特色ある取り組みの公開を継続していくことが重要であるという認識から、今年度の大会集会では次の活動を計画した。

1) 教材懇談会の実施

- ① 特色ある教育教材についてのアンケート報告
- ② 特色ある教材の実践例の紹介プレゼンテーション
- ③ 教材の共有化に向けての条件等の整備

2) 特色ある教育教材の実践例の紹介展示

3. 本大会における活動の概要

本大会での活動に先立ち、特色ある建築教育の実践状

況を知るために 2004 年 10~11 月にかけて WEB によるアンケートを実施した。本教材懇談会・展示会への参加希望者延べ 46 名を含む、209 件の熱心な回答を得た。集計結果をもとに、建築教育にかかわる教育上の工夫、取り組みの概要や共有化にかかわる意見を報告する。

さらに、アンケート回答者をパネリストにむかえ、各機関で活用されている魅力ある教材や特色ある取り組みをご紹介いただき、会員相互の情報交換を活発に行い、本委員会で検討している「教材共有化」に対する展望と今後の課題等について、会場を交えて議論したい。

また、「大会各種行事」の一環として、アンケートによせられた多くの実践事例から、本懇談会でのパネラーを含めて 37 件の取り組みを、21 号館の一部を展示空間とした紹介展示を企画した。ぜひお立ち寄りいただきたい。

これらの活動の記録と今後の参考のために、資料集の作成を試みた。上記の研究懇談会パネラーや展示会参加の取り組みだけでなく、アンケート回答者から公募した取り組みも掲載している。アンケート集計結果とともに、今後の教育活動等に活用していただければ幸いである。

4. 本集会の意義と今後に向けて

教育現場が昨今おかれている状況の厳しさをふまえると、各校・各教員の独自性を尊重しつつ、効率的に教育の質を確保することが求められる。そのためには、それぞれの取り組みや教材を公開し、共有することは有効な施策になろう。こういった素材となるコンテンツを活用した上で、学習対象者などの所属機関における状況、教員個々の考え方によって、これらの素材を活用し、オリジナリティあふれる教育を構築することができる。そのための方法や工夫は様々な生み出せる。手軽に情報が入手できることで、オリジナリティの発揮により多くの時間を割くことも可能になる。一方で、求められる内容が各自の専門領域を超える場合などは、ストーリー性をもった取り組みの紹介も参考になるであろう。

こういった教材の素材となるコンテンツを中心とした共有化を進める上では、教育業績の評価方法の検討を含め、提供する側・利用する側の双方に有効な運用システムを構築する必要がある。諸外国における先行事例を参考にしながら、より積極的な会員の参加が望めるシステムとするべく、多くの参加者による議論を期待し、意味のある教材共有化に向けて条件等の整備を行いたい。